

令和6年度地震・津波防災訓練 (沖縄県糸満市・内閣府)

実施報告書 (概要版)

沖縄県糸満市について

(いとまんし)

沖縄県糸満市は沖縄本島最南端であり北緯26度8分・東経127度40分に位置している。北は豊見城市、東は八重瀬町に接し、西と南はそれぞれ東シナ海と太平洋に面している。糸満地区は、農漁村から自然発生的に形成された市街地であり、平成30年における住宅総数は、家屋棟数2万4,850戸である。新市街地の西崎町・潮崎町は道路等の基盤整備の進んだ住居・商業・工業地区となっている。



糸満市の気候区分は亜熱帯海洋性気候であり、年降水量2,160mm、年平均気温23℃、年平均相対湿度73%となっている（那覇（沖縄気象台）における平成3～令和2年までの30年間の観測値を平均した値（平年値））。平成3～令和2年までの沖縄県への台風の接近数は、平均すると年7.7回である。

糸満市など県内の16市町村は、南海トラフで著しい地震災害が生じるおそれがあり、「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されている。



訓練概要

- 訓練想定：令和6年11月17日（日）午前8時頃、沖縄本島南東沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し、糸満市内では最大震度6強の揺れを観測した。大津波警報発表後、8時21分に、糸満漁港に津波の第一波が到達する想定のもと、訓練を実施。
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和6年10月26日（土）10:00～12:00
【地震・津波防災訓練】令和6年11月17日（日）8:00～14:00
【訓練実施後WS】 令和6年11月17日（日）9:00～9:30
- 主催：糸満市、内閣府
- 参加者数：約50名（津波避難訓練）
訓練実施前WS：16名、訓練実施後WS：22名
- 参加機関：（津波避難訓練）地域住民、糸満市、糸満警察署、沖縄気象台
（糸満市総合防災訓練など以降の訓練）上記に加え、糸満市消防本部、糸満市消防団、沖縄県警察本部、陸上自衛隊、航空自衛隊、糸満市社会福祉協議会、糸満市自主防災組織連絡協議会、糸満市赤十字奉仕団、糸満市女性防火クラブ、社会医療法人友愛会友愛医療センター、こくみん共済coop沖縄推進本部
- 訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、防災講話、関係機関各種体験訓練ほか
- 訓練の特色：今回の訓練対象地区における住民参加型津波避難訓練を初めて実施した。防災専門家による講話を通じて東日本大震災での実態を学び、津波避難の必要性和その意識を高めた。その後、子育て世代や外国籍住民等の多くの参加のもと、多文化共生を考慮した炊き出し訓練や、各種実動・体験訓練等を行った。

訓練の成果

【成果】

- 津波避難訓練は、訓練対象地区においては初めて実施した。
 - ・訓練前ワークショップでは、地震発生時からの各自の時点ごとの居場所を地図上でプロットしながら、津波避難の確実性を検討し、参加者によっては「逃げ切れず津波に遭う」場合がありうるなど緊張感を高めることができた。
 - ・訓練当日は、参加者各自の生活形態での被災を再現し、野球練習中の少年チームが走っての避難や、ペット同伴の家族全員での徒歩避難、歩行力未熟な乳児が津波避難場所の階段をゆっくり上がる動作等を実体験でき、各人の津波避難時の課題を洗い出すことができた。
- 津波避難訓練終了後に、市内各地の市民等を広く対象にした展示・体験訓練を実施した。
 - 子ども連れの家族や、多様な国籍の外国人居住者ら幅広い層が参加した。
 - ・炊き出し訓練は、ハラル食やアレルギー物質を含まないカレーライスなど、多様な人々への配慮の必要性を啓発できた。
 - ・関係機関による各種訓練・展示を通じて、参加者は、各機関の装備や初動行動、役割等の知識の向上を図ることができた。

【課題】

- 津波避難訓練の対象地区は、今回が初めての取組であり、継続的な実施が必要である。
- 同地区は、近年造成・整備された市街地でもあり、自治会や自主防災組織が未設立である。今回の訓練やワークショップを通じて、地域コミュニティの必要性の指摘があり、共助の観点からも早期の設置が望まれる。
- 糸満市は、多様な国籍の外国人の居住者が多く、地震・津波に関する知識・訓練経験が乏しい場合もあり、今後も多言語等による取組を継続的に進める必要がある。

10月26日(土) 10:00～12:00 訓練実施前ワークショップ

- ・地震発生20分後に津波の第一波が到達することを想定し「各自は地震発生から何分後にどこにいるか」をテーマに、「逃げ地図ワークショップ」を開催した。
- 防災専門家（賀数淳沖縄大学特別研究員）より「命を守るには避難するしかない」ことが強調された。

▼地図を用いた話し合い



▼話し合い後の講評



11月17日(日) 8:00～14:00 地震・津波防災訓練

- ・地区住民は、シェイクアウト訓練の後、自宅最寄りの津波避難場所まで津波避難訓練を行った。
- ・気象台の協力を得て「津波フラッグ」の掲出訓練も実施したほか、各津波避難場所では施設管理者が避難者の安否を確認・整理した。
- ・津波避難訓練終了以降は、市内各地の市民等を広く対象にした展示・体験訓練が行われた。多様な機関の連携・協力のもと、食物アレルギーに配慮した炊き出しや、多言語による防災啓発展示、各機関の車両等の装備や初動行動・役割等が紹介された。

▼津波避難訓練
(津波避難ビルの階段)



▼津波避難訓練
(津波フラッグの掲出)



▼食物アレルギーに配慮した炊き出し訓練



▼自衛隊による避難支援
(入浴) 訓練



11月17日(日) 9:00～9:30 訓練実施後ワークショップ

- ・直前に終えた津波避難訓練での参加者各自の避難経路を振り返り、家庭へ持ち帰って日頃から取り組むべきことや心構え等を確認した。
- ・防災専門家が、東日本大震災での津波避難の実態と教訓に関する講話を行い、津波避難の理解と実践を訴えた。

▼避難経路の振り返り



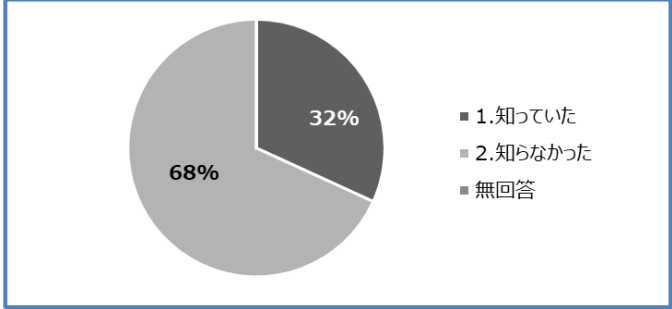
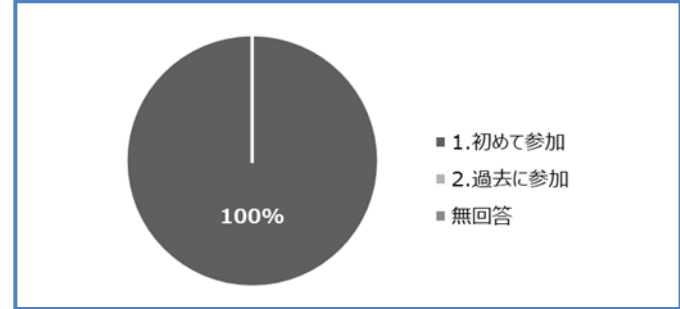
▼防災講話



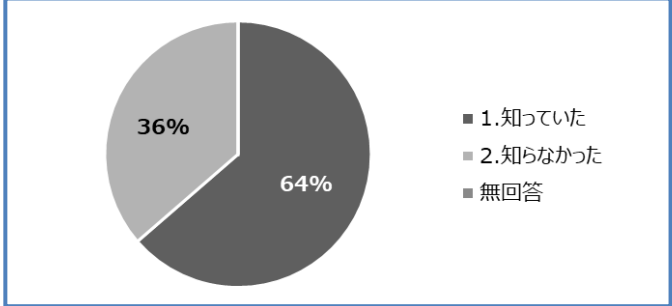
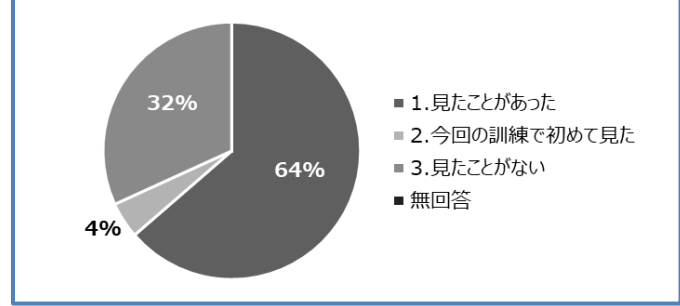
アンケート結果

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

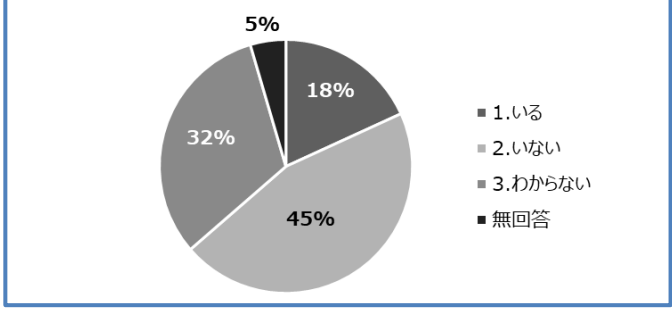
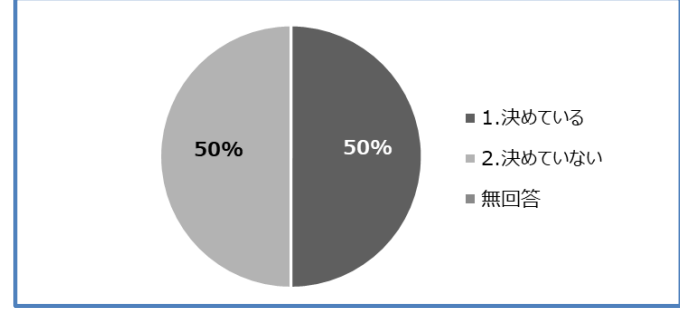
■地震・津波防災訓練に参加したのは、初めてですか。 ■ 1 1月5日が、「津波防災の日」であることを知っていましたか。



■市で作成している「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。 ■ 津波に対する避難先や避難経路を知っていましたか。



■災害時に家族同士で、どのように連絡を取り合うかを、家族の中で決めていますか。 ■ あなたの周辺に、避難行動要支援者（※避難のため様々な支援が必要な方）は、いらっしゃいますか。



■あなたが避難する際、可能ならば避難行動要支援者の避難を支援しようと思いますか。 ■ 自治会や隣近所で、災害時の避難について話し合ったことはありますか。

